

学術振興の観点から国立大学の教育研究と
国による支援のあり方を考える検討委員会

これまでの議論 & 今後のスケジュール

福田裕穂

審議事項

- 内外の経済・産業・社会及び教育研究の動向がわが国の大学、特に国立大学に及ぼす影響について
- 国立大学が教育研究において果たすべき役割、国立大学の運営及び国による支援のあり方について

委員

- 委員長: 福田裕穂 東京大学理学系研究科(2部)
- 副委員長: 安浦寛人 九州大学(3部)
- 幹事: 三成美保 奈良女子大学生活環境化学系(1部)
- 幹事: 古谷野潔 九州大学歯学系研究科(2部)

- 金子元久 筑波大学大学研究センター(1部)
- 秋葉澄伯 鹿児島大学医歯学総合研究科(2部)
- 甲斐知恵子 東京大学医科学研究科(2部)
- 高橋雅英 名古屋大学医学研究科(2部)
- 大西 隆 豊橋技術科学大学(3部)
- 小谷元子 東北大学原子分子材料科学高等研究機構(3部)
- 五神 真 東京大学(3部)
- 福山満由美 日立製作所日立研究所機械研究センター(3部)
- 小安重夫 理化学研究所(2部)
- 佐藤 学 学習院大学文学部(1部)
- 広田照幸 日本大学文理学部(1部)
- 吉見俊哉 東京大学情報学環(1部)

これまでの審議経過

- 2015.5.18 第1回国立大学の在り方検討委員会
- 2015.6.22 第2回国立大学の在り方検討委員会
 - 井藤英樹 財務省主計官からヒアリング「我が国の財政状況と大学予算をめぐる課題」
- 2015.7.23 第3回国立大学の在り方検討委員会
 - 義本博司 文部科学省大臣官房審議官からヒアリング「今後の国立大学改革について-高い付加価値を生み出す国立大学へ」
- 2015.9.30 第4回国立大学の在り方検討委員会
- 2016.1.4 第5回国立大学の在り方検討委員会
- 2016.1.7 学術フォーラム「少子化・国際化の中の大学改革」
 - 里見進 国立大学協会会長「国立大学の役割・課題・取組」
- 2016.4.8 第6回国立大学の在り方検討委員会
 - 論点整理
- 2016.5.30 第7回国立大学の在り方検討委員会
 - 提言たたき台の作成開始
- 2016.8.5 大学教職員組合3団体との懇談
- 2016.8.15 第8回国立大学の在り方検討委員会

論点整理

検討の前提

1. 国立大学の存在理由
2. 国立大学を取り巻く環境の変化
3. 最近の動向

問題点の整理

1. 国立大学の財政基盤の弱体化とそれに伴う大学間格差の拡大、短期的政策の蔓延
2. グローバル化に向けた教育の遅れ
3. 国立大学間の新たな連携の必要性
4. 学術の先端化に対応し、社会の発展に貢献する研究教育の必要性
5. 人文知の社会活用促進のための制度改革の必要性
6. 国立大学法人化の制度の評価と国立大学のグランドデザインの作成

最近の国立大学をめぐる意見の表出

- 平成27年1月1日 経団連
 - 「豊かで活力ある日本の再生—Innovation & Globalization—」の発表
- 平成27年6月15日 文部科学省
 - 「第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方について(審議まとめ)」の公表
- 平成27年9月14日 国立大学協会
 - 「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」の発表
- 平成27年10月15日 日本学術会議
 - 日本学術会議幹事会声明「人文・社会科学のあり方に関する声明への賛同・支援への謝意と大学改革のための国民的合意に向けての提案」の発表
- 平成27年11月6日 UR11
 - 「自由な発想に基づく独創性豊かで多様な研究を継続的に支援することの重要性について(提言)」の発表

今後のおおよそのスケジュール

- 平成28年10月31日 第9回検討委員会

- ・提言内容に関する議論

↓

(今までの検討委員会や学術フォーラム、文部科学省との懇談等を踏まえて提言素案の作成)

↓

- 平成28年11～12月 第10回検討委員会

- ・文部科学省との意見交換、提言素案に関する議論

↓

(メール等により提言素案の修正)

↓

- 平成29年1～2月上中旬 第11回検討委員会

- ・フォーラムに付議する提言素案の確定

↓

- 平成29年2月中下旬～3月上旬 学術フォーラム

↓

- 平成29年3月下旬 第12回検討委員会(又はメール等による審議)

- ・提言素案の修正(案の確定)

↓

- 平成29年5月末 提言案の修正・確定・公表